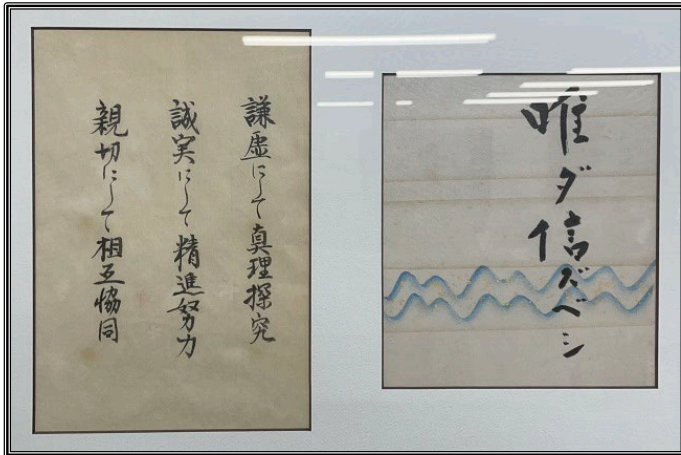


平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 4月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。



4月は母の誕生月である。昨年この月には母の事を書いた。画像は左が母、右が父の自筆。母は字を書くのが好きで、王羲之の練習本を頼りに書いていた。母が父に『王羲之の様に上手く書けへんわあ』と言った。父が応えて『そら ひどい。書けたら王羲之は泣くぞ』。老いて目が弱くなっていき、見える間にと頑張っていた。自分の感想は、『よくこれだけ同じ調子で書けるものだ』である。

右の色紙。母が嫁いで来た時には既にあったというから、父が少なくとも三十代前半で書いたことになる。自分は父が42歳の時に生まれている。6歳上の姉がいる。そうすると、 $42-1-6=35$ で、それ以前という計算になる。その35という年齢は、これ以上個人で借金が出来ないから『会社でも作るか』って考え、起業した年齢に当たる。起業前に開業届を出しておいて、起業時の半年後に担保も保証人も無く見事300万円を借りる事が出来た。

『唯、信ズベシ』と書いた父とは大違いの俗物そのものだ。その信じるという事だが、それは『信じるものこそ

救われる〜』とか『信じる、信じないはあなたの自由』とかでもない。『信じる』ということ自体がエネルギーを生み、そのエネルギーが信じた事を現出させるということ。こんなこと、信じられるう〜？ でも、この文字を見ていると『本当らしい』と説得力を以って迫ってくるから、この世の成り立ちは不思議だ。

いったい、どうなっている？ 信じ続けるには確かにエネルギーが要る。だけど、そんなエネルギーは長続きしそうにない。だから、そういう信じ方ではないように思う。そういう意味で、『唯』の文字がついているのではないか。この『唯』は、もっと軽く、『心の片隅にでも置いておけばいいんだよ』と言っているような気がする。

さて今は、千歳空港で北見市のお客様のところからの帰りの乗り継ぎ待ちをしている。携帯の充電は切れそう。女満別空港から千歳経由で伊丹空港まで戻る。その便が使用機材手配の遅延で、105分遅れると言って足止めされ、これを書いている。今、更に30分遅れると携帯に報せて来た。のんびりこんな事を書いている場合じゃないのかも知れない。他の便を探した方が良さだろうか。この予定では、伊丹空港到着は20:30になる。伊丹空港は街なかの空港で、周辺住民に配慮して21:00以降は発着できない空港だ。つまり、後30分以上遅れると、寝ずの番をしている関空にまわされる。

あの去年の悪夢が頭を過る。出雲空港からの帰り便、天候不良で遅れに遅れて搭乗する機材が到着し、同じように遅れている便が目白押しで、結局関空に降りる事になった。そこからリムジンバスで伊丹空港に送るという。とてもそんな気になれず息子に関空迄迎えに来させて、伊丹まで送ってもらった。

♪ あなたなあ〜ら、どうする〜

それでも、信じられますか？

いや、そんなことではない。

そもそも、今回の出張は昨日の伊丹空港出発から怪しかった。9:00 フライトの羽田経由女満別空港のルートを選択していた。9:00 フライトなので、早めに空港に行き、8:00 play ball の WBC 決勝が見られればラッキーと思い、早めに家を出ていた。いつもの中国自動車道を 10 分ほど走るルートは工事で通行止めだった。それで、豊中まで走り、そこから阪神高速に乗り換え、伊丹に向かう。後 1 km のところで渋滞した。それでも 30 分ほどで空港に着いた。チェックインカウンターは 4 組ほど並んでいた。素直にそのラインの最後尾に付いた。

5 分ほどして、後ろに並んでいたスーツ姿の 50 過ぎであろう男性が空港職員を呼び、『8:15 の便に乗りたいので順番を優先してくれ』と言っている。言い方も、態度も常習犯だ。顔つきは、自分は選ばれた人間だとして書いてある。思わず叫んでしまった。『みんな早くから来て並んでんだ、ふざけんな』。みんなが一斉にこっちを向いた。だけど、自分の言い分が正しいので、次には、その彼の方に冷ややかな視線を移す。その視線に抗うように『まちがえたんだよ〜』と、会議用の中身の無いセリフを言う。『いいよ、許すよ』と自分が言うと、勝ったと思ったのか、お前の許しを求めてないよ とでも言いたげな不満顔をあらわにした。その顔を見て腹が立ち、『なんや、その顔は』と、思わず出てしまった。これは余分だった。何故なら相手がシュンとなってしまったから、と、別に珍しい事ではないがひと悶着あった。

それは、過ぎた事だからいいのだが、その後手荷物検査に行くと、何と久しぶりに入場制限をしていた。現在は 8:30 までのフライトのみの方を御案内しています、だって。先日の新幹線も乗り換えの新大阪駅は超満員だった。コロナは終わった。仕方が無いので、テイクアウトのコーヒーでも、と探しに行くと、さっきの我が儘を言った五十男が、案の定土産物を物色していた・・・

15 分ほど待ちぼうけをして、ようやくラインに入ったが、そこから 20 分ほども掛かった。これは苦難の旅になると

思ったが、その通りになった。

別に自分の予感を信じた訳ではない。

結局テレビが周囲になく、自分のパソコンの amazon prime で見る羽目になった。何故か先のサッカー World Cup に引き続き、WBC に釘付けになっている。準決勝のメキシコ戦は、7 回終了時に 9 回村上が逆転サヨナラ弾を放つと思った。指を折って打順を数えるとそうだった。そう思っていると、その通りの結果がやって来た。まさかノーアウトのまま打順がまわって来るとまでは思わなかったが・・・良い事も、そうではない事も、概ね後の事実が先に来たりする。

そういえば、橘香道の流儀で般若心経の写経を始めたことを母に告げると、母は書きやすい小筆 5 本と半紙を千枚送って来た。母曰く『千願成就と言って、千枚写せば世界は貴方の思いに通るよ』だった。もう 40 年近くも前のことだ。それから 2~3 年もすると、何だか知らないが、思うように世の中が進んでいく。明らかに違う事が始まった感覚。それで、枚数は数えていなかったが、千枚に到達したのだろうと思った。この流儀の写経をしている人に出会うと、口を揃えてみんなが『少なくとも、不安は無くなる』と言うから面白い。

別に、信じている訳ではない。過去とか未来とか、そんな時間軸の無いところの事実座っているだけという感覚。難しい表現かもしれないが、身体に入って来る外からのエネルギーに『唯 身をまかせている』だけで、特段、何かの努力をしている訳でも、修行をしている訳でもない。今年、70 億円以上の稼ぎをする大谷君の様に、気合を入れているのでもない。さりとて無の境地にいる訳でもない。斯く在りたいとの願いは勿論持っている。

今年から、ひょっとするとスーパーマーケットは 2019 年に遡りをするかも知れない。もし、前年同月対比という指標を持つなら、この年と比べれば冷静になれそうな気がする。もし、この年を超えられているなら、この間の努力が実を結んでいると捉えればいい。